



夷 若 天 險

2025年11月10日

発行責任者 菅野 拓哉

JR貨物労組九州地本青年部

2025年度年末手当第3回交渉 「会社の考え方」が示される！！

直近半期の業績

足元の動向

社員の頑張り

2025 年度上半期の輸送量は前年比 104.2%。一方、輸送コスト増で 2025 年度上半期単体経常利益は△1 億円(対前年 30 億円改善)。

飲料メーカーへのサーバー攻撃による出荷減や北海道の農産品生育不良などにより、10 月末時点で対計画△ 5.5 億円。

休日返上・無事故で自然災害・脱線事故対応を完遂、輪軸組立作業における問題への対応を完遂、改めて感謝する。

「人材確保は重要な課題」
「要員を整えるのは会社の責任」

対策

- 採用活動強化
(エリア採用導入・経験者通年採用)
- 離職防止策展開
(メンター制度・フォロー研修)



組合員の可処分所得減少
生活苦しい実情
理解する…。

しかし

「単体赤字は受け止めなければならない。」
期末手当＝業績給

11月10日時点での会社の考え

「1. 6ヶ月台の壁を越えられる※ように引き続き社内で議論していく」

※交渉速報で「前回の夏季手当は6半期ぶりに1. 6ヶ月台を越えており」という表現をしていることから、「1. 7ヶ月台に乗せるようにしたいが、現段階ではそこまで至っていない」と解釈できる。

会社経営陣は職場の実情が見えているのか？！

会社は、社員の頑張りも踏まえるとしながらも、結局は“期末手当＝業績給”の考えを固持し、

「上半期決算の単体赤字」と「直近の収入計画未達」を理由に手当抑制の考えを示した！

到底受け入れることができない！！

しかし、会社は「貴組合の思いと主張は否定するものではない」

「減収や計画未達が理由で年末手当を抑えることは考えていない」

「会社として最大限の回答を示していきたい」とも言っている！
な・ら・ば、

我々が日々直面している現実と苦勞を、回答指定日まで会社にぶつけ続けていこう！

- ①会社への「要請 FAX」第2段階・[会社の考えを受けての反論・意見]を書いて送ろう！
- ②11月13日(木)の「全国統一職場集会日」に最大限結集し、団結力と我々の本気度を示そう！
- ③各職場で「現場長要請行動」を展開しよう！（可能であれば役員以外の組合員も参加しよう！）



まずは自分のできることから…。次回、第4回交渉 11月19日(水)！